

情報連絡員報告・12月分

製造業・非製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDIが好転

～製造業は3ヵ月連続で好転～

<東京都中央会>

12月の情報連絡員報告によると、前月と比べて製造業、非製造業ともに売上高、収益状況、業界の景況のDI（前年同月比）が好転した。製造業は3ヵ月連続での好転となった。

特記事項からは耐震強度偽装問題や寒波襲来の影響（「防寒帽子の売れ行きが好調」、「果実・野菜の価格高騰」、「暖房器具の動きが活発化」等）に関する報告がよせられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

特記事項欄より

「繊維・同製品」

- ・記録的な寒波のため、ニット帽子や防寒帽子の売れ行きが好調です。特にニット帽子はヤング層にふたたび受け入れられ、冠帽率の上昇に貢献している。

「木材・木製品」

- ・大幅な好転とは言えないが、昨年と比較すると経営状況は改善されているようだ。しかし、二極化が進展しており、組合員全体では好況感は薄い。

「鉄鋼・金属」

- ・原材料の値上げにもかかわらず、製品（アルミ、亜鉛等）販売価格は上げられず、苦しい状況が続いている。耐震強度偽装問題の影響も心配される。

- ・12月の商況は電力用電線の高操業度が続いている。大手セットメーカーが機器用電線の安売り競争をしている影響もあり、採算的には極めて苦しい。主要原材料の銅価は2年前と比較して2倍以上で内部努力では克服できない状況にある。

「電気機器」

- ・仕事量は確保されている。操業度も上昇していて、納期までに対応できないこともあった。しかし外注費の増大等の懸念もあり、採算性の大幅な好転は望めない。

「その他製造」

- ・構造計算の偽装の影響か、着工予定が実行されず、年内の工事のかけ込み納

期がなくなり、労務に空きがでている。
この影響が来年のいつ頃に来るのか、
予想できない。

「卸売業」

- ・クリスマス商戦は概ね前年比90%前後にとどまったものと思われる。これといったリードアイテムがなく、選択権がプレゼントする側にあったためにベーシックな玩具は好調だった。
- ・米国産牛肉輸入を再開するも相場が高く、年末商戦には対応できず国産牛肉の不足による高騰で収益は悪化している。
- ・ウオームビズの影響と急激な寒波の到来で景況は上向きとなっている。しかしこの傾向がいつまで持続するか疑問である。業界としては一息ついたと言

ったところ。

「小売業」

- ・寒波による果実、野菜、畑への影響が多かった。加えて交通網にも被害が大きく、需要と供給とのバランスが崩れ、販売価格が高騰した。
- ・寒い日が続いたためか、豆腐の消費量は伸びない。事業主の高齢化と豆乳ブームが去った影響で、12月中に都内の組合員11名が廃業に追い込まれた。

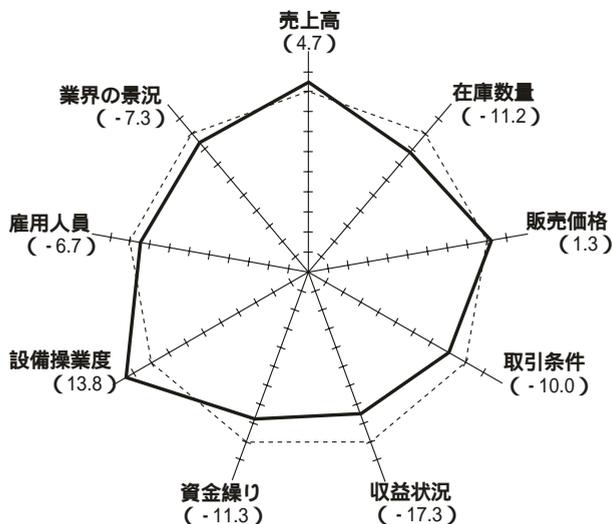
「商店街」

- ・寒波襲来で大小暖房器具の動きが活発になった。12月は売上150%アップという声も聞こえる。

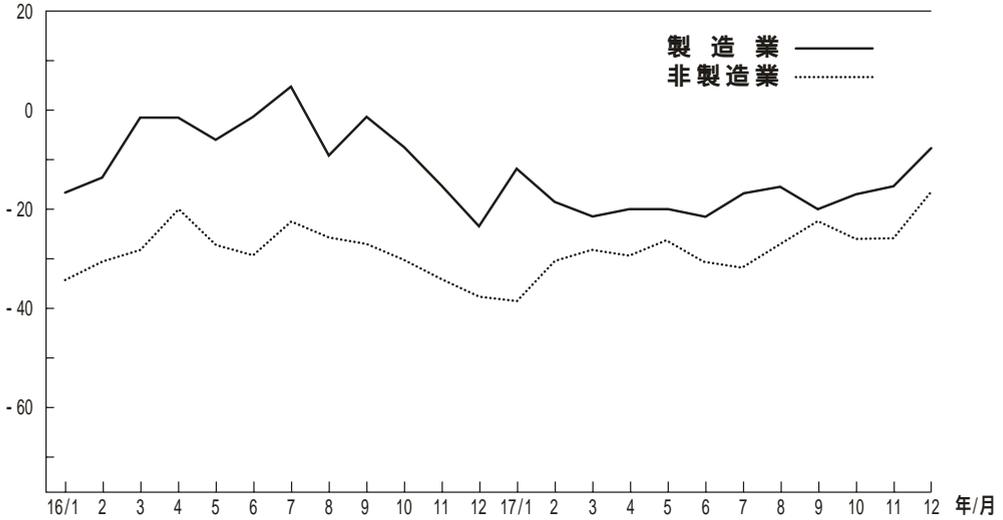
<要望事項欄より>

- * 一般消費者の購入意欲がでるような大型減税の実施。 [繊維・同製品]

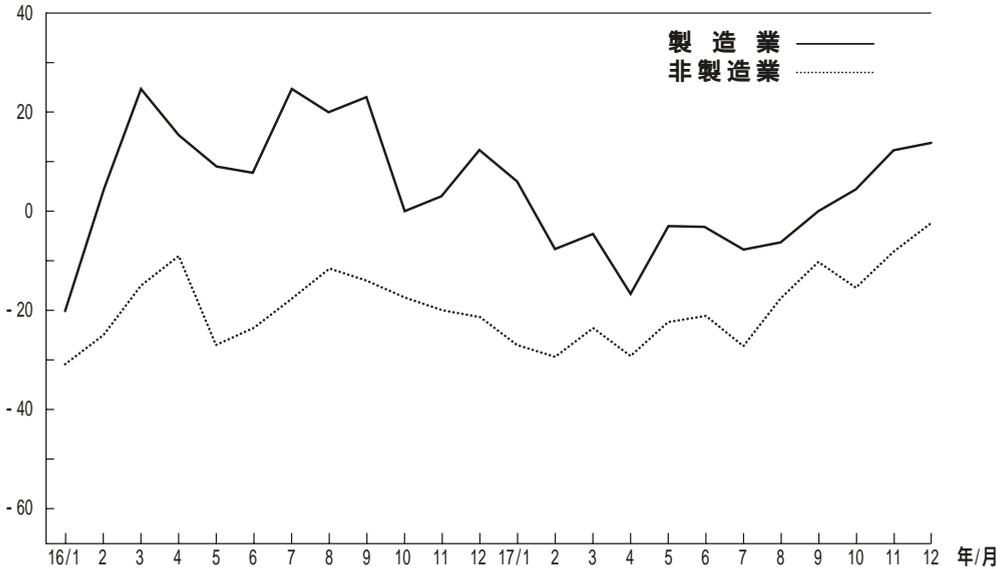
12月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



業界の景況DIの変化 (H16.1～H17.12)
(前年同月比)



売上高DIの変化 (H16.1～H17.12)
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。